

令和5年度 第3回堺市文化芸術審議会 議事録

1 開催日時

令和6年1月26日（金）10時30分～12時00分

2 開催場所

フェニーチェ堺 多目的室

3 出席委員（50音順・敬称略）

雨森 信 委員	（ブレーカープロジェクト ディレクター インディペンデントキュレーター）
永井 泉 委員	（公募委員）
永島 茜 委員	（武庫川女子大学准教授）
坂東 亜矢子 会長代理	（演劇評論家）
藤野 一夫 会長	（芸術文化観光専門職大学副学長）
藤原 麻喜子 委員	（公募委員）
山口 洋典 委員	（立命館大学共通教育推進機構教授）

4 出席議事関係者（50音順）

上田 假奈代 様 （堺アーツカウンシル プログラム・ディレクター）

5 事務局職員

文化国際部長、文化課長、文化課参事、文化課長補佐、文化課企画係長 ほか

6 関係者

公益財団法人堺市文化振興財団事務局長、総務課長、事業課長、事業課係長、堺市民芸術文化ホール企画制作担当課長

7 議題

- （1）令和5年度堺市文化芸術審議会の答申案について
- （2）令和6年度堺市文化芸術活動応援補助金の応募状況について

(3) 令和4年度堺アーツカウンシルの活動報告について

8 議事録要旨

開会

<事務局より説明>

議題

(1) 令和5年度堺市文化芸術審議会の答申案について

◎藤野会長

それでは議題に入ります。

「議題(1)令和5年度堺市文化芸術審議会の答申案について」審議します。事務局から説明をお願いします

<事務局より説明>

◎藤野会長

ありがとうございました。まず、私がこれを読んで本当に堺の仕組みが良くできていると思います。いろんな自治体の審議会で委員をしていますけども、ここまで事業の調査をして、定性評価を専門家の視点からしていただきました。公募委員の方も、もう専門家だと感心いたしました。これだけきちんと評価を書いていたということは堺の特徴である、非常に大きな強みだと思っています。

過不足なく書けているとは思いますが、まだここが足りないとか修正が欲しい等ご意見があるかと思しますので、各委員のご意見いただきたいと思っております。

○藤原委員

答申書についてですが、評価シートの「事業の重点的方向性への寄与について」のみが記載されております。「事業の評価に値する事項について」や「事業の改善すべき事項について」は答申書には記載されないのでしょうか。

◎藤野会長

これはどうでしょうか。事務局で作成していただいておりますが、ボリューム的に答申ということになるとあまり分厚いものは読みづらいかと思えます。付則として「(資料2)視察事業評

価シート一覧」に記載する形で宜しいでしょうか。

●事務局

はい。藤原委員がおっしゃるように全てを記載することも良いのですが、一方で藤野会長がおっしゃる通り答申のボリュームが大きくなりすぎると、内容がバラバラになってしまう可能性もあり、どなたかの意見のみ記載することや各委員のご意見もまとめて記載することが難しいため、今回はこの内容としております。付則でつけています「(資料2)視察事業評価シート一覧」も合わせて市 HP には公開いたします。答申書についてはこのボリューム感でいければと思っております。

◎藤野会長

宜しいでしょうか。はい、ありがとうございます。他いがかでしょうか。

○山口委員

丁寧におまとめいただきありがとうございました。また、私の視察のコメントが皆さんのコメントと比較して、もう一步踏み込んでもいいのかなと思いました。藤野会長がおっしゃられた通り、ひとりひとりが多角的な角度で見た内容、それに藤原委員もぜひその最大限に反映をした方がいいんじゃないかというのが気持ちがよくわかります。一方で、答申としてまとめるにあたって本当に繰り返しですけど、端的にまとめて頂いたという素朴な印象です。

令和7年までの取組評価の今年3年目ということで、ささやかに気になってるところを二つぐらいお伝えさせていただきます。

一つは、13 ページにあります「おわりに」のところで、それぞれの重点的方向性に対して、各視察事業を中心にした意見になっているのですが、必ずしも令和7年に向けたその目標値に向けてどう動いていくのかということまで、関連付けができてないなということなんです。ただ、それは必ずしも必要ではないと思うんですけども、重点的方向性3について今回の事業は、文化芸術事業の認知度が30%を超える事業数が増えるための手がかりを今模索しているだろうと思われるんです。この重点的方向性3は、おそらく財団の企画力が鍵ということが言われていると思うんですが、一方で評価指標はまた違う評価指標が1番目と3番目と並んでいますので、その評価指標が外形的に評価できるよう、貢献できる事業の視察などが今後望まれるんじゃないかと思います。仮に令和7年になったときに、これまで評価してきたことは何だったんだということにならないように、この充実した現場での実地評価が活かされる、そんな展開が必要なんだろうなということなんです。

もう一つは、重点的方向2の部分での評価をさせていただいたので、ここはもう財団のコーディネート力が鍵だろうというのは、この人材拡充により対応すべきということだと思われるんですが、一方でこの中で重点的方向性1の部分で、割と厳しく内輪にとどまってないかみたいなところがあるわけですけど、必ずしもこの視察をした事業だけで見えない部分というのがあると思われるんですね。アーツカウンシルがあることによって日常的に期待や注目や、あるいは相談に対応している部分があれば、これは重点的方向性3の1番目の今回の視察評

価だけで、目標が達成するということが必ずしも言えないんじゃないかということが重なります。むしろ重点的方向性1は、日常的な事務事業評価というか、そういう部分を重ねた、何か総括コメントを、せつかく最後に関係図が出てきますので、こういう中で堺アーツカウンシルがあることによる重点的方向性1への寄与、必ずしも事業の参加人数などだけでは見えない側面、プロセスのマネジメントを丁寧に行っているということも含めた、堺の芸術文化振興への貢献のあり様などについても申し添えができるといいなという気がします。大前提としてそれがこの14ページにある最後の4行部分の記述からも読み取れるところではありますので、このままでももちろんいいんですが、そうしたことを仮に今日の議事録などに入れていただければ、この視察で全て語りきっているわけではなく、それを一つの手がかりとして、令和7年度に向けた着実な事業の企画、推進、あるいは発展、さらには評価というものが行われていることですので。この答申を決議していくということが位置づけられた方がいいなところなんです。くどいですが、この視察事業全てであの全部語りきっているわけではなく、かつ、目標値を外形的な基準がこうでしたということで開き直すつもりはないというところを確認できればと思う。踏み込んだ発言かもしれませんが、二つお伝えさせていただきました。

◎藤野会長

大変貴重なご意見ありがとうございます。評価をいかに総合的に行うかって、なかなか難しいところがあって、その中で試行錯誤しているわけですけども。堺市の評価のあり方はかなり高いレベルまで基本的には行ってると思います。でも、まだそこで見落としている面があるんじゃないかという、貴重なご指摘ですね。

今、令和4年度の評価ですけど、令和7年度の最終目標に向けてどういう風にそれぞれ説明を続けていくかについて、そこはまだ大きな構想はないのかなと思います。

それから人材の拡充はもとよりですけども、重点的方向性の1への寄与の意味付けですかね、そこをもう少し深掘りしてもいいのかなという気はします。確かに最後のまとめのところで、三つの重点的な方向性については、的確に整備しているんですけども、さらにそれを総合するような記述はあってもいいかと思います。

他、ご意見いかがでしょうか。

○永井委員

私は10月のベルリン・フィル八重奏団の演奏会を視察しました。その際に来場者向けのアンケートを実施されていて、その結果を、評価シートを書いた後にデータ送っていただきました。それを読んで、私は全く気が付かなかった点がありました。私自身も堺市民で、近くに住んでおりますので、ホールには自転車でも徒歩でも来れるので、こんな近くでこういう演奏会が聞けるのは市民として、非常にありがたいなと思ったんですが、他方でアンケートの自由記述の中に、遠くからいらした方で、駅からのアクセスが本当にすごく悪くて、迷ったという意見がありました。あくまでもこの堺市の文化芸術推進ということで、そうした点はそんなに重要ではないかもしれませんが、もっと外に向けて来場者が堺に来やすくなるような取組はございますでしょうか。

◎藤野会長

これは来場者のアンケートからでしょうか。市外からの来客者にとって、必ずしもこの場所を認知することができないというのは私も感じてまして。駅から近いんですよね。裏道を通れば10分とか来れますかね。堺東駅から来るのですが、これだけ大きな建物なのに駅からも見えないし、市役所からも見えないし、なんとなく地域の中に埋没している感じがします。近くまで来ると大きいなという感じなんですよ。だから、いつものルートで来たらいいか迷ってしまうので、初めての方は相当迷われるかなと思います。それぞれ工夫がされてると思うんですけど、駅からの動線についてももう少し検討した方がいいんじゃないかなという気がしますが、これは財団のご意見でしょうか。

○堺市民芸術文化ホール企画制作担当課長

永井委員がおっしゃったように、駅からのアクセスのご意見というのは、他の事業でもアンケートに記載があります。何とか払拭したいなということで、ホームページのアクセスの表現であるとか、チラシに掲載している地図等もできるだけ工夫をするようにはしていますが、やはり、藤野会長おっしゃる通り初めて来る人というのが、調べて来ていただいているんだろうけど、やっぱりわかりにくいというところ。当初から市とも連携しまして、アクセスルートの整備については、例えばカラー舗装したりであるとか、実はあんまり意識していただけていないかもしれませんが、バナーを掲示している等、いろんなことをやっているんですけども、まだ浸透していないのが実際のところ。市の屋外広告物の条例等も含めてですね、検討してまいりたいと思います。

◎藤野会長

駅から歩いたら本当に近いですよ、裏道を通ると近いのに、どの道をいくか迷うところがあって、実際にどういうルートで駅から来られる方が多いんですか。やっぱり広い通りでしょうか。

○堺市民芸術文化ホール企画制作担当課長

はい、大阪和泉南線という堺東駅前を南北に天王寺から鳳まで繋がる道路があるんですけども、そこを駅から降りてまっすぐ歩かれて、新町という交差点にはあるんですけども、新町6号線を通して、ホールに来るというルートが曲がるのが1回で済みます。それが一番わかりやすいかと思いますが、実はその新町6号線には歩道がありません。一応、市との協議の中で、バリアフリールートは堺郵便局回りというルートで、車椅子の方でも十分な幅のある道路、歩道を通じていただいて、ホールにアクセスできるということで、そちらのルートをバリアフリールートで推奨しています。ただ、そちらはどちらかというと、一般の方にとっては遠回りになりますので、その辺がまだここを通れば、全員がしっかりとフェニーチェ堺を認識してアクセスできるんだということが、今きちんとはない状態で、2本3本ルートがあるというのが現状になっています。

◎藤野会長

これだけ立派な施設なので、堺市のランドマークになってほしいと思いつつ、やっぱり一般的には埋没しているような見え方になっていて、それがちょっと惜しいなと思います。

他、ご意見いかがでしょう。

○永島委員

永島です。よろしくお願いいたします。「(資料2)視察事業評価シート一覧」をホームページ等で掲載されるのであれば、表現や特定されてしまうようなところも書いてしまってるところもあるので、今一度文体や、個人が特定されるようなところの表現は改めて推敲していただければと思っております。

関係図について、この関係図ができた当初はまだここまで事業が充実していなかったと思います。より一層事業等が充実していて、行政のどこに入れるのかわかりませんが、社会包摂プログラムで、社協との連携がかなり深まっているので、子育て機関、教育機関等に福祉関係を加えたり、行政でも所管部局だけではなく関係部局みたいなものを加えたり、改めてこれも評価に値するというか、主体が増えたということもすごく評価に値すると思えました。

あと、「おわりに」のところでは事業評価のまとめになっているようなところがあるので、ここはもう少しこれらを踏まえて、総合的な記述、考察、講評が必要かなと思います。例えば、それがよく表れているのが13ページの最後のところで、開催、集客の課題とかでも開催日時を週末にするというのはかなり端的で表面的な話で、週末にしたらお客さん集まるというほど単純な話ではなさそうということがここにいっぱいコメントとして書かれているわけです。もう少しお客さんの視点や先ほど永井委員がおっしゃられたようなアクセスの問題等、すぐに改善できる場所の限界がありますけれども、これも周辺の翁橋公園と一緒に事業を行う、例えばパンフェスタやっていたりするとお客さんも結構わかりやすく来られたりするところもあるので、単体でフェニーチェ堺だけとなると、来にくいのかもかもしれませんが、翁橋公園と一体化したような見方をすれば、もう少しアクセスがしやすくなるのかもしれませんが。そういった総括や事業評価だけにとどまらないような顧客創造、一体化した活性化作りのような記述を少し加えても宜しいかと思います。

◎藤野会長

はい、ありがとうございます。後半のところからいうと、13ページ下の集客の課題の解決について、もう少し深く対応、検討した方がいいのではないかと。それからもう一つはこの14ページの関係図のところにも所管部局以外の関連部局等を付け加える等、主体は少し補充をお願いします。だいぶ時間が経過しておりますが、他に何かありますか。

○坂東委員

私は企画担当者のためのワークショップ実践研修の視察に伺いました。これは自戒の念も

込めて言いますが、もちろん評価シートなので、ここは良かった、ここは駄目だったという課題点や評価を記入するシートなのですが、やはりその課題を解決するために、こうするべきじゃないかという提案をもっと書き込めたらよかったなという風に思います。皆さん、各分野の専門家なので、次の事業に繋がるような提案なりアイデアみたいなのもっと盛り込めたらよかったなと思います。それは答申書に載せる載せないということだけでなく、こういったことでしかなかなか貢献できないかと思うので、そういう提案みたいなもの書き込めばよかったかと思います。皆さん書かれているので。

◎藤野会長

今からでも遅くないので、提案を書いてあげてください。

○雨森委員

私は今回初めて視察行かせていただいて、この評価シートを記載したんですけれども 答申書の方に「事業の重点的方向性への寄与について」のみが抜き出されると思ってなかったので、全体的に 1 枚の報告書に書いておりました。皆さんがおっしゃってることと被る部分ですが、次年度に向けてどういうにこの答申によってどのように改善することで、より良い事業に持っていけるといいかと思います。

◎藤野会長

チェックや評価のレベルはすごくよく出来ています。そこからアクションになかなかこの自治体も向かっていない。その中で財団や堺アーツカウンシルも出ているので、比較的有機的に連携して、アクションに繋がるような提案もされてるし、おそらく、実際にネットごとに改善されてると思うんですね。そうすると、見え方をどうするか検討する必要があるかと思います。これはキャッチボールが何度も必要ですね。実際、どういう風に改善されたのかということはこちらも知りたいですし、改善されていくプロセスというのを、文章でもいいですし、何らかの形で落とし込んでいただけると、分かりやすいかと思います。数値目標だけ掲げていてもむなしいですよね。どういう風に地域や社会や人が良い方向に変わっていったのが可視化できるような書き方、見え方が必要かと思います。

5 ページの重点的方向性1のところですが、文化施設の利用者数は数値化されています。で、あとの二つの地域マネジメント機能の構築や社会包摂型事業の新規実施については、目標値として、令和7年度に機能構築、あるいは事業実施と書いてあるんですが、ちょっとわかりにくい、抽象的過ぎてわかりにくいと思うんですが、これはもう少し説明できますか。機能構築というのは、ガバナンスの強化になりますか。

○山口委員

現状値である令和4年は0なので無限の飛躍をすれば良いと思います。目標が0なので、値で示されないということですね。藤野会長がおっしゃったPDCAということが前提になります。それも、基本的には製造業の不良品をなくすという、製造管理なので、あんまり文化施策

に使わない方がいいだろうと思いつつも、一般的に言われてるのでそれに倣うとなると、ないものから機能構築をしないといけないので、仮に今、令和6年度を迎えようとする中で、仮の目標値を定めておくことはできるかもしれません。ただ、これは0なので、定めきれませんでしたということです。評価指標が地域マネジメント機能の構築なので、まず指標に対して評価の観点を明確にして、これができるいれば、その観点が賄われているということになるわけですから、これは1回こちらの審議会で来年ぐらいに議論して、令和7年度にこの点に到達しているかどうかを議題として取り上げないと難しいかなと思います。それは新規実施もやればいいのかというところではなくて、何をもって社会包摂型事業とするかというところを、改めて今回、事業評価を行いましたので、それについての総合的な令和7年度の時点での評価の到達点、目標値という部分の値で示される部分があるのか、あるいは値だけでは示されない部分があるのか。もう一度戻りますと、機能構築と何をもって機能構築と捉えるか、この辺りを地域文化会館というところの定義の明確化とともに、行政がやった方がいいことと行政がやりすぎない方がいいところ、ボトムアップでその状態が維持されるということも機能構築だと思えます。一旦、今日の段階で決めすぎない方が、私達の気持ちが楽になるんじゃないかなと思います。

●事務局

市としまして、地域マネジメント機能の構築については地域文化会館の職員がアートコーディネータ的な視点で、地域の方々と接することができる機能を構築してもらいたいと思っています。その一環として、企画担当者のワークショップ実践研修に各館派遣して参加してもらっています。令和4年度と5年度で座学と実践編、展開編と両方受けて、実際に事業実施していただきましたので、そこで地域文化会館での小さい基礎にはなりますが、小さい基礎というところは見えてきたのかなと思っています。

社会包摂型事業の方については、市の主なところは文化振興財団の方が担ってくれておりまして、例えば今年度の場合、2月にミュージック・イン・ザ・ダークを行う予定で、今まで実施していなかった社会包摂型事業が出てきています。そういったところに積極的に新しい取組をしてもらってるところを踏まえて、事業実施という評価はできるのかと考えております。

○永島委員

この記載だと、現況がゼロと見えてしまいますね。既に構築はされていると思いますが。

○山口委員

数値化できるかどうかというところだと思います。当初目標値で掲げることになるので。そのミュシャ展においても視覚に障害のある方が触れて体感するところもあったりするので。必ずしもこの視察事業だけで全てが、語りきれないというところが先ほど指摘したところにも繋がってくるので、もったいないなという気がします。視察事業だけでは語りきれない部分をどうやって総合的にもっていくのか。令和7年度の目標値を適切なものに修正というか、あるいは再設定する必要があるれば、それこそが壮大なPDCAになる。明確にするのは令和6年度にお

いて、令和7年度時点の目標値を改めて再設定するといいかと思います。機能構築は0か1かという、○か×か、イエスかノーかみたいなところを出すのがいいのかがどうか、来年度の議論だと思っています。もし、それを来年度に申し送るのであれば、14ページにそうした点を総合評価のなかで記載すればいいでしょうし、一方で目標値だけでは、達成の寄与が明確にできない側面もあるんじゃないかということであれば、何をもって評価の確定とするのかというところが重要となってきます。少なくとも予算に対して、費用対効果の部分だけで見ないということは大事なところ。それを5年後に評価しようというインパクト評価の視点だけ入れておいて、早急な結論を出さないことも検討した方がいいかと思います。

◎藤野会長

そのあたりは大きな目標として、文化芸術と共に生きるとはすごい壮大な話ですよ。そのための仕掛けづくりを今しているところですよ。仕掛けづくりとして二つの勉強会、実践研修があるわけですが、仕掛ける側のスキルを上げていく、あるいは意識を変えていくというようなところで、助走をしている。しかし、最終年度の7年度と言ってももうすぐなんですけど、そこで文化芸術と共に生きることができるような市民の数とか割合がどのぐらいになるかということを狙うのかどうか。でもそれはすごく数字を出しにくいと思うんですけど、どこで指標を示した方がいいか、ワークショップの数や参加者数とかそういうのがありますけど。

○雨森委員

ロジックモデルとかワークショップで作って、もう少し指標のところを分解して、書き出して、それでもこの表にはならない気もしますが。数値化できないものもあると思います。例えば、勉強会も5年間を通して、各地域でやりたいな、そういう目標値なのかどうかわかっていませんが、数が多ければいいのではなくて、その目標に向かってやっていくとなったときにここにはどう書けるのか。

○永島委員

例えば、文化芸術と共に生きるが中心にあって、それがチャート的にこの周辺に要素として現状値があったり、数値的なものがある一方で事業を実施していたり、そういう書き方だったらイメージしやすいかもしれない。目標としては、中心にあるがその周辺にいろんな要素があって、着実に進んでいるこの部分を強化しないといけない、これとこれが繋がっているというような形の方が伝わりやすいかもしれないですね。

◎藤野会長

このまま議論していると、一回分の審議会が必要なるので、また事務局と相談させていただきます。どういう形で目標を設定するか、あるいは段階的にどう上げてたらいいか。

ありがとうございます。だいぶ時間が経過してしまったので。皆さんからいただいたご意見を再度事務局で集約して、修正を行った上で3月22日に予定されています。第4回の審議会で今年度の方針として確定させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。では、事

務局修正をお願い出来ますでしょうか。

(2) 令和6年度堺市文化芸術活動応援補助金の応募状況について

◎藤野会長

次の議案ですが、「議題(2)令和6年度堺市文化芸術活動応援補助金の応募状況について」事務局からご説明をお願いいたします。

<事務局より説明>

◎藤野会長

はい、ありがとうございます。特にこの審査について私は楽させていただいて申し訳ないですけど、実は他の助成財団も今の時期はたくさんやっています、全体に去年より2割ぐらい増えた感じですね。やはりコロナ禍から抜けたということで、息を吹き返してきています。それ以上に、堺アーツカウンシル上田さんを中心とした広報活動等のおかげもあって増えているかと思います。審査大変かと思いますが、関係の方よろしくお願いします。

(3) 令和4年度堺アーツカウンシルの活動報告について

◎藤野会長

では、続きまして「議題(3)令和4年度堺アーツカウンシルの活動報告について」上田 PD よりご報告お願い致します。

○堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター

お手元に活動報告書を置いているかと思います。さっきから令和5年、6年の話をして今更4年度の話をするのがとても心苦しい感じがいたしますが、思い返すとやっぱりコロナの影響が見通せない中での令和4年度だったかなと思います。

堺アーツカウンシルの指標が申請件数の数だったということで、この年は非常に忸怩たる思いがあったと申しますか、市民の人たちが不確実な中で活動をどうするか迷った年だったなと思います。また、相談を強化した年でもあるんですが、相談をした結果、その趣旨と補助金が合ってなく、申請をされなかったケースもあり、そういう意味ではミスマッチを防いだとも言えます。できれば、物が欲しいだけの方や、活動の底辺を支えて欲しいんだという方々に寄り添えるようコミュニケーションを、今後もとっていきたいなと思っています。日々の活動のところで、なかなか連絡を取れてる人もいっしょにゃれば、連絡をとれてない方いっしょにゃって、出来たらちょっとでもご関心のある方と繋がっていきたいと思います。

他には、令和4年度には地域文化会館の担当者の方と研修に取り組んだのが大きいことかと思っています。2年間のプログラムで令和4年度は座学の年で、令和5年度に実践することが出来まして、やっぱり地域を飛び出して、そして他館の職員さんと連携をとっていくことはい

ろんな意味合いで堺の活動を支えている事業かと思います。その取っ掛かりが令和 4 年度であり、そして次はこの 2 年間のプログラムを 1 年に縮めて実践していこうと思っています。また、文化会館だけではなく、堺市内の中で市民の人たちと直接触れ合う館、図書館や施設関係にお声がけを進めていきます。

採択事業についてはいくつか視察に伺って、どんなことに取り組まれているか PD,PO が担当して 10 ページの実績報告書に記載しております。本当に視察も大事ですし、視察を前に関係を取りまして、相談をしながら今後の幅広い取組の相談相手となれたらいいなと思っています。実際に事業を考えたものの、事業実施に困られて、どうしようとなって訪ねていくと、実は困っていたということもあって、こんな風な取組はどうでしょうかという提案を差し上げて、実際に実施者の方がそういったチャレンジを始められました。そして、その経験からご自身でも閉じていた活動がより広げられて、また今年も実施するというので、取り組まれている方もいらっしやいます。

アーツカウンシルの活動は専門性が高いプログラム・オフィサーが揃っており、個別にそれぞれ丁寧に取り組んでいると思います。勉強会はちょっと参加者少ないんですけども来てくださっている方にとっては、そこで繋がりが生まれることや新しい気付きがあることを引き出しています。交流会は楽しい雰囲気、異なるジャンルの方たちが参加されています。ニュースレターは名刺的なものとしてお渡し、他のアーツカウンシルさんと意見交換を行ったりもしています。それぞれのアーツカウンシルの有り様がありますが、堺のアーツカウンシルとして今取り組んでることを紹介しています。他でできていることをお聞きしながら何ができるか模索しています。

私からご紹介できるようなことはこんな感じですので、また令和 6 年度にはメンバーがちょっと変わりますので、次回ご紹介したいと思います。

◎藤野会長

ご説明ありがとうございました。今の上田さんからのご説明について何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

○永島委員

視察にいかれた事業の中から取り上げて、この報告書に載せておられるのが素晴らしい活動だと思います。助成金というのは大体お金を出したらその後放置で、お金が適切に使われているかというところはすごく結構厳しく見ますが、その事業内容を適切に公開して、堺市民が出している税金がこう使われているというのを可視化しているということで、ホームページにも掲載していると思いますが、こういう広報というのは、非常に大切ななと思いました。支援を受けた方たちもすごく励みになるので、ぜひ継続して出していきたいと思いました。

○堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター

掲載している以上にもっと視察に行っていまして、視察に行つて記入したレポートはホームページ等で掲載しております。

○永島委員

こういったフォローが本当に大切だと実感しておりました。ありがとうございます。

◎藤野会長

これは去年の10月に完成していますよね。部数はどうくらい印刷しているのですか。

●事務局

報告書はデータのみでして、市の方針として印刷物を作るというのがペーパーレスの観点からも、なかなか厳しいところがございます、データで作成したものをホームページに掲載している状況です。

◎藤野会長

惜しいですね。私のところも全国からこういう報告書が届きますけど、やっぱり手にとって初めて認知できるんですよ。ホームページだとなかなか自分から見に行かないんですよ。物として残っていると印象に残るし、堺に聞いてみよう、堺に視察に行ってみようという流れになると思うので、プリントパックでもいいので印刷して頂ければと思います。

○永島委員

アーツカウンシルの事業費でも印刷出来ないのでしょうか。

●事務局

同じ市の事業予算なので、印刷は難しいですね。

○永島委員

フォローは必要であり、これこそ助成するべきものだと思います。掲載された方も励みになりますし。

◎藤野会長

広報として捉えた方がいいんじゃないかなと思いますね。どこかでお金が捻出できるか検討してみてください。他いかかでしょうか。

○雨森委員

今のアーツカウンシルのメンバーでどれくらい視察に行っているのでしょうか。補助金で採択している団体の半分くらいは行けているのでしょうか。

○堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター

半分くらいは行けているかと思います。本番だけを簡単に見ることよりも、できるだけコミュニケーションを取りたいと思っています。事業実施で難しい人ほど力になれるようにしています。おかげさまで、だんだんコミュニケーションが取れるようになってきて、電話がかかってくるとかメールをもらったりするようになってきています。

◎藤野会長

他にご意見ございますか。

○雨森委員

各文化施設で実施している勉強会は堺市内を回ることなど今後に向けて目標はあるのでしょうか。

○堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター

勉強会は理想を言うと、地域文化会館を全て回ることや、堺市内における拠点施設でも実施したいと思っています。まずは堺市内の拠点となる場所を調査することから始めないといけないですね。

○雨森委員

そういった活動が重点的方向性 1 の目標の中に組み入れられればいいのかと思います。

○山口委員

もどかしいのは参考資料 2 でいただいている諮問の内容を見ると、あくまで補助金の申請事業に対する審査のみが答申で直接的に扱う内容となっています。なので、最後まとめのところだったらいろいろ言えるのですが、一方で堺アーツカウンシルの活動報告書をいただいて、それらを踏まえた令和 5 年度の諮問は補助金のみですけど、仮に 6 年度 7 年度と諮問の内容が計画全般に渡ったときに、きちんと構えられるようにということで、評価して目標値の具体化が必要じゃないかということですね。むしろ、それを前倒して、せっかくこの根拠資料としてアーツカウンシルの活動報告書がもう 10 月に出てるので、その資料を根拠資料として最後の「おわりに」のところに申し送りすることはテクニカルには出来るんじゃないかと思います。

●事務局

諮問は 2 つさせていただいてまして、前の 7 月に開催させていただいた審議会で計画評価の諮問と今回お配りしている補助金の申請事業の内容に係る審査の 2 本を諮問させていただいています。

○山口委員

タイトルはそのままいいということで、検証評価についての答申があるということですね。

いずれにしてもうまく最後のまとめの部分で工夫して頂ければと思います。

◎藤野会長

それではお時間となりましたので、これで審議会を終了したいと思います。もし、ご不明な点がございましたら事務局にお問合せください。最後、事務局から何かございますでしょうか。

<事務局より説明>

◎藤野会長

では、以上をもちまして第3回堺市文化芸術審議会を終了させていただきます。